近現代詩（小景異情）　＊＊

次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

1　ふるさとは遠きにありて思ふもの
2　そして悲しくうたふもの
3　Aよしや
4　うらぶれてB異土の乞食となるとても
5　帰るところにCあるまじや
6　ひとり都のゆふぐれに
7　ふるさとおもひ涙ぐむ
8　Dそのこころもて
9　遠きみやこにかEへらばや
10　遠きみやこにかへらばや

問一　傍線部Ａ「よしや」と傍線部Ｂ「異土」の意味を答えなさい。

問二　傍線部Ｃ「あるまじや」と傍線部Ｅ「かへらばや」を口語に直しなさい。

問三　傍線部Ｄ「そのこころ」とは、どのようなこころを言うのか。「その」の指示する詩句を二行抜き出して答えなさい。

問四　この詩について、

１　作者がどこにいて詠んだ詩だと考えられるか。答えなさい。

２　前問の根拠となる詩句を一行抜き出して答えなさい（繰り返しは一行と考える）。

問五　この詩の構成について述べた次の説明文の空欄部①～⑥には適語（漢字二字ずつ）を入れなさい。各行につけられた行の番号を、空欄部ａ～ｃには適語（漢字二字ずつ）

この詩は、大まかに四つの部分に分けられる。（　①　）では、望郷の思いを、（　②　）では、離郷後の自分の姿に思いをはせながらも、故郷を、≪　ａ　≫する思いを、（　③　）では、再び東京での望郷の思いを想像し、（　④　）では、あえて故郷をかなぐり捨てていこうという≪　ｂ　≫を表現している。つまり、故郷に対する≪　ｃ　≫と≪　ａ　≫が、交互にあらわれ、作者の故郷に対する屈折した思いが、波打つように伝わってくるのである。特に（　⑤　）と（　⑥　）に、その矛盾した心理の対比が鮮やかにうかがえる。

問六　この詩を書いた詩人の名前を答えなさい。

問六	問五			問四		問三	問二	問一
	a	⑥	①	2	1		C	A
	b		②					
	c		③					
			④					
			⑤					

	E	B

学年
組
番号
氏名
得点

近現代詩（小景異情）　＊＊

〔出題の意図と留意点〕　問一・二、語句の理解。問三、指示内容の把握。問四、詩の読解・内容把握。問五、詩の展開把握と内容の理解。問六、作者についての基礎知識の確認。

☆解答例と配点

問一　A　たとえ。仮に。　B　故郷を遠く離れた土地。異郷。〈3点×2〉

問二　C　あってはならないなあ（あるはずもないなあ）　E　かえりたいものだ　〈3点×2〉

問三　ひとり都のゆふぐれに／ふるさとおもひ涙ぐむ　〈4点〉

問四　1　ふるさと（金沢）〈4点〉

2　遠きみやこにかへらばや　〈5点〉

問五　①　1・2　②　3・4・5　③　6・7　④　8・9・10　⑤　5　⑥　7（⑤と⑥は順不同）〈2点×6〉

a　拒絶（拒否・否定・憎悪なども）　b　決意（意志なども）　c　思慕（愛慕・愛惜なども）　〈3点×3〉

問六　室生犀星　〈4点〉

計50点